

情報交換の発表要旨.....

島根県松江市 吉野安久

宍道湖、中海にどの位の白鳥が来ておるか、特にこれが中海で、これが島根半島でございます。端のところは(みよの関明神)それからこちらが出雲大社と、関の五本松の関と。中間のところに宍道湖と中海があります。今その中海のお話をいたします。

どの位来ますかと言いますと、最近のことですが 歴史的に出ておりますのは1,200年程前の日本書紀にも、出雲風土記にも出ております。最近では会長の内田さんの方で明治の資料が出ましたし、大正の資料も出ました。それから戦後は宍道湖に

意東海岸へ飛んで来まして、ここの意東の海岸と、(いや滞)を往復して、夜はここで眠り、ひるはこちらです。この様なことを続けて参りまして、42年150羽、それから200羽、160羽、280羽、230羽と今年の1月は340羽とだんだんふえています。

今の話で保護区がだんだん拡大しましたので、その話を申し上げます。

40年にはこれだけが大きくなっております。41年暮から42年に白鳥がまいりまして、すぐに42年の10月には保護区を拡大していただきました。陳情その他で。

ところが拡大してもらいましたが、極一部分拡大しまして、拡大した線の外側が、ちょうどその線の上まで拡大した。こういうふうになりますと陸上からずいぶんカモが来ておりまして数万羽のカモが

ここから、陸上からカモを追っている形になります。

43年5月には、ここから500m、ここまで保護区にしてもらいました。なお次に46年ですが、保護区を拡大してもらいました。

大根島これだけを線をつなぎまして、干拓してこの線がここまで。鳥取県と島根県の県境がはっきりしませんので問題になっておりますので、まあ問題のないところでここまで

ここでよかったことは
今までは海岸までを保護区にしておりましたが、こんど鉄道線路まで保護区にしました。それで去年、一昨年、今年と広がりました

餌は子供が順番にやることにして、
それでどうしたらよいか 鳥に条件反射をつけさせるために、全部餌つける者は白いヤッケを着たので大体効果があがったと思います。大体中海にいる白鳥は の()を食べております。それで自然環境が破壊されいろいろ問題で

昔42年の写真ですが、こういう状態で自然の餌を食べておったのですが、それから餌づけに成功しまして、こういう状態になっております。現在、自然破壊というのが問題ですが、本会を通じて中海の自然保護をやっていただきますようお願いいたします。

今年の3月176羽1ヶ所で数をよんでおりました。そこで実際のところ200以上来ていると思いますが確認したのは176羽です。そのうちオオハクチョウが僅か7羽しかいないのです。これは島根県、石川県、福島県、猪苗代湖などコハクチョウが多いようですが、そのような状態でなにかその辺に関連があるかと思いますが、それは今後研究していきたいと思います。それから今朝のテレビで環境庁の方が自然環境調査をやられるそうですが、その中で野生動物の種類が出ていたようですが、その中に白鳥が加えてあるかどうか、お調べしたいと思います。それと自然環境保全地図をこしらえる。

是非その中へ自分の渡来地も保全区というよう

な中へ入れていただきたいと思います。

東京都 堀内盛一（環境庁勤務）

中身がにつまったものでございませぬので、これといって皆様の けれども
動植物 動物の中で鳥類、鳥類の中の白鳥というものが当然に入って来るものと思われませぬので、その点は皆様の方に調査員をお願いすることもあろうかと思われませぬのでその辺のところでもよろしくご判断いただきたいと思ひます。

香川県高松市 松田輝雄

高松市に溜池が沢山あります。特に高松市の南部、大体車で20分位の辺りが田園地帯と街がのびて来ている接点となっておりますが、接点の辺りの溜池に毎年といつても私は高松市に来てまだ四年ですが、四年は毎年来ております。先程も申しましたが、今年が1羽、去年が1羽、一昨年が2羽、その前が親子連れで5羽ということだす。前から高松に住んでいる人にききますと41年に30羽程来て、県内の小学生や中学生がバスを繰り出して見物に来たことがあつたさうだす。

今は1羽、2羽で溜池10ヶ所位を転々として、冬になると池の水が引くものだすから、その小魚でも残つていられるのでしょうか、魚を食べるかどうか知りませぬが、とにかく魚が見えるようになってからやって来るさうだ、大体11月14日に来たさうだす。水が溜り出すと気温が上がるのでしょうか、タイミングとしてもよいさうだ、北の方へ行くといふようなことだす。

滋賀県琵琶湖 八田知行

それからずっとまいつておりませぬ。

42年の秋に琵琶湖大橋から南の部分で鳥獣保護区に設定いたしましたが、その効果があつたさうだ、関連づけるさうだ

関係あるさうだ気がいたしますが、このさうだ琵琶湖の南部の方に40年ぶりに現れておりますといひませぬ2羽とか5羽といふさうだ程度でございませぬ。

それから44年に8羽、(ヤツ川)河口に8羽とか6羽。

それから46年1月と書きましたが47年のまちがいでございますが、全面禁猟いたしましてから琵琶湖の北部に()といふ湖がございませぬが、ここに13羽飛来してあります。

それから48年の3月に1羽長浜地先に確認して、このさうだございませぬ、今後皆様のご意見をお聞きしまして定着地として出来ませぬさうだに努力いたしたいと思つてあります。

福島県猪苗代湖 大森常三郎

猪苗代湖の周囲は72kmほどございませぬが、渡来する位置はこの間、ここ大体10kmに涉つてあります。そしてここは砂浜でおりませぬ。比所と比所が観光施設がありまして、この地点と、この地点に水草がよく繁茂してありまして、この地帯に渡来します。

猪苗代湖は標高が520m位で長野県の野尻湖につぐ標高の高い渡来地であるといふこと、それから戦後観察した当時は23年に7羽であつた。

それがだんだん増えてきていられるなあといふ事から38年に37羽になつて、ここで農薬の被害と思われられるさうだ、7羽は死んであります。

この頃から白鳥の保護にのり出しまして、40年に餌づけをいたしまして、餌づけ開始当時は67羽でございませぬ。

それからずっと現在今シーズンは432羽を数

えるまでに増えて参りました。

その間、県の天然記念物指定から始まりまして昨年の2月に国指定の天然記念物になりまして、この間を指定して保護することになりましたけれど、まだ問題はここの湖水は漁業権もありますし、その間の折り合いもつけなければならない問題だということでもあります。

福島県阿武隈川 八木 博

阿武隈川という

橋が300m位の幅ですが、このあたり川が流れているわけです。こちら松川という小さい川ですが、この間は おかめ橋とこの橋の間、約2,000mです。上竹さんの家はこの辺りのものですから、川の中で現在は島が出来ているのですが島をブルドーザーでいぐりまして、湾をつくりまして、水の流れを止めて、この中に餌をまいている訳です。

何分沼や湖水とちがいで、餌を入れても流されてしまいますので、最初に屑米を毎朝まいてやりました。

一番最初に来た時は、45年に26羽来たのですが、26羽が来た時は、丁度島はなくて、じゃり採りのあとで浅かったり深かったりして 柳の葉のような藻があるのですが、このヤナギモを主食として食べていたようなのですが、それがなくなった頃、みなさんで眺めているだけで餌づけなどやらなかったわけです。資金もなかったのです。私は鳥獣保護員ということで餌づけをしたくて、上竹さんも一緒に川に入って青米をまいたところ非常に効果がありまして、青米を大体1回に1斗位そっとまいて来る。青米ばかりでなく、最初はこういうような箱を作りまして杭で止めておいて、茶殻とか、ミカンの皮、リンゴ、野菜の屑、白菜をこまかく切って入れたわけです。だいが馴れて

きて食べるようになりました。「白鳥さんの歌」などが出来まして福島市民の冬の名所になりまして、小さい子供やおじいさんから日曜日になりますと その環境は、土堤があり、川がありまして県の方でサイクリングロードを作ったわけです。 10羽が5羽になりまして最後の5羽が3月15日になると飛ぶわけで、4年間のデーターがあるわけです。白鳥の渡来については、日照時間との関係ですね。この頃になりますとヒバリが鳴きます。3月15日になればヒバリやウグイスに見送られながら、白鳥が北上して行くというのが福島の阿武隈川の白鳥の状態です。

宮城県伊豆沼 横田 義雄

白鳥の伊豆沼、内沼、長沼の3つの沼を合せまして、私たちは伊豆沼湖沼群と申しておりますが、ここのところの青いところが宮城県と岩手県の境になっております。北の方ですが、その青い色の3つの湖が白鳥とガンの来る所でございます。

白鳥について申し上げますと今年の1月16日、環境庁で調べましたのが約2,800羽。それから野鳥の会で調べましたのが1,000羽余りでございます。いづれにせよ1,000乃至2,000は確かに来ております。

その種別ですが、大体9月、10月頃にはコハクチョウが非常に多い。そして11月頃からオオハクチョウがだんだん増えておりまして、毎年ならばコハクチョウが、もう2月3月には、いなくなるというのですが、今年に限って2月3月までおったと。それでオオハクチョウとコハクチョウの割合は、はっきりしたところはわかりませんが大体今年あたりはオオハクチョウが2月3月で6分、コハクチョウが4分位でなかろうかということで、これは将来調査を要すると思っております。それから種別のうちで1つ今年アメリカコハク

チョウがまいりました。これはただ1羽でございますが、ここに写真を持ってまいりましたのでおまわしいたします。

このうち右上の所、目の前に黄色の斑点がございます。これが特徴でございます。斑点のないのがナキハクチョウあるいはアメリカコハクチョウの斑点のないものと

白鳥の保護・給餌関係はここにお出での相沢さんが非常に詳しいので追加していただきますが、この伊豆沼の中の白鳥の保護は今のところ3ヶ所で行なわれておりまして(エづけの)棧橋も鉄製のものが3つ作られて、その他小さい補助の木製のものも作られております。ただこの問題はうまく白鳥が餌を食べておるのですが、餌が足りないということ、周囲の人の自発的寄附によって、糞(糞)その他を集めておりますが、やはり足りないようで2月の末頃になくなって給餌しないので、給餌しなくなると1週間か10日のうちにいなくなつたということもあります。(後略)

長野県野尻湖 永 島 吉太郎

野尻湖はただ疎開で参ったもので、土地にとっては完全な他所者なのです。

白鳥が来ることは知らないでいて、38年はじめてオオハクチョウだということを知ったのです。その時は3羽参りました。双眼鏡で確かめてなお中西先生に問合せ確認したわけです。38年1月です。これは保護しなければということで。国立公園内でありながら禁猟区でないのでは何とか禁猟区にして鳥獣保護区にして貰わなければならない。陳情や請願などをしてみたがうまくいかない。どうしても地元の農業組合や猟友会の反対が多くて、てんで問題にならない。

くりかえし陳情したが

県としては鳥獣保護区にしたいらしいのですが公聴会を開くとだめになる。かなり報道関係の方が根まわしをして下さって、よさそうだというんで

公聴会を開きますとだめになる。

町議会、県議会、県知事に陳情をくりかえしたのですが、報道関係の方々が応援して下さいってひっこみが見つからないようにして下さい。中村さん、吉川さん、嵯峨さん、鎌奥さん、みなさんお骨折り下さって、あの手この手と裏から表から。

ひっこみが見つかなくなって、しぶしぶこの(47年)11日鳥獣保護区にすることが確定したと町長が言っています。

まだ、問題があるのでお願いしておかなければと思います。複雑な形をした湖水なので水面だけを保護区にするのでは駄目なので、これをずっと広く保護区にして、大きくとりまく形にしないと意味がないのです。今はカツカツな線を引いておりますが、もっと広くしてくれないと意味がないこと。それから伊豆沼のお話と同じように、野尻湖は深い所は42mも深さがあるので大きい遊覧船でも何でも動きまわることが出来る。何十kmもスピードの出るモーターボートでひっかきまわしてしまう。それで余り広くない所で、スピードボートでウォータースキーを引っぱったり、冬はそういうことをやる人はなくなるけれども、やはりそういうボートがありますと、今までの所ですとカモ猟などで走りまわっておっぱらってしまうのです。スピードボートの入らない区域を是非つくるようにしてもらわないと白鳥の保護は出来ないだろうと思っております。今のところ一番多くなりましたのが13羽位のもので、狩猟がゆるされたままの餌づけですから一向にはかばかしく増えてはおりません。

餌のことですと長野市などでパン屑をとっておいて下さるので、私が長野まで取りに行くのですがよるこんで食べている。トウフのオカラをトラック1台上げると言って下さる方もあるので、おかげで餌の心配はないのですが、どうも不徹底でにえきらないような鳥獣保護ですので

第1段階としてはこれでもありがたいと思っている。殊に伊豆沼のように浅い所でしたらエンジンのついた船が入るといことは水を汚染してしまう。油がどうしても浮くので そしたら野尻湖の場合でしたら魚が減るのです。これも一つの攻撃の手段で、こんな船を持ちこむと魚がいなくなるよと、言うのもよいかと思うのです。野尻の場合は広く保護区にしたいと思うので、折にふれご援助をいただければと思う次第です。

青森県大湊 三上士郎

私も餌づけは、ずっと前からやっております。自分自身で口から口へ、口うつしにやったりする重大犯人だと思っており、ほんとうはこういうことは、いけないのではないかと思います、そのことは別にしまして、青森県の話をしていきたいと思います。

ここに十三湖がありましてここに畠山さんの小湊があります。これは特別天然記念物であります。ここにわれわれの「むつ」があるわけです。

ここに広大な小川原湖がありますが、今めちゃくちゃになろうとしている所です。

私が(昭和)29年に(医院を)開業しました時に昔から小湊の白鳥は東から風が吹けば大湊へ行くし、西から風が吹けば十三湖に行くのだから、小湊の白鳥だけを天然記念物にしておけば、ことたりと言われていたのですが、実際に大湊に帰って、夜この附近を歩いてみるとさかんに白鳥が鳴いている。

どうせ、こういう仮説をたてるならば十三湖と、小湊と大湊の白鳥を同日同時間に調べて、一、二年のデータを作って、小湊の白鳥だけを天然記念物にしておけばいいという結論が出てくれば、よ

いのですが、そうでなくて昔から青森県におられた鳥学者の方々の意見がこれに反しておりましたので、私は不審に思いましたので、先ず29年に畠山さんに小湊、大湊の調査をお願いしたので - 飛んで来るコース、渡去するコース 大湊のものは、このまま帰ってゆく。十三湖はうたれて1羽もいなくなりましたが、松前半島を越して ここに集って 「むつ」のこちらの方に入る。

新聞にも書いたもので

県でも捨てておけなくなって十三湖、小湊、大湊も調べたところ、各地が別の集団であることがわかって、県も止むを得ず、十三湖と大湊を県の天然記念物に指定したのであります。こういうこともあるので、今までの固定概念にとらわれずに皆様ご自身の眼で調べていただきたい。

もう一つ日本の有名な鳥学者が、小湊の白鳥が時に応じて対岸の大湊へ行くこともあると書いた。もう一つは海岸線をまわって、厚岸湾に入って風連湖の方に行くというのです。大湊のやつはどんどんこれに向って飛んで行く。私の家の上を通過するとすぐ(シダノ)灯台に電話をかける。大体60キロで15分位で飛んでゆくわけです。灯台員が望楼に上ってみてくれる。この説を信じて私は四年間こっぴかり見てもらっていた。

こっちは全然見えないという。いくらこっちから100も200も飛んで行っても灯台から見えないとはふしぎだ、ふしぎだと思っているうちに灯台長が街を歩いていると、うしろから入って来た、こういう話を聞いた。34年からこっちの方を見てくれと、たのんだ。たまたま200羽位の集団が飛んだので電話をかけた。大体ここは15分位で「むつ」の上空は200m、(シリヤ)から南は陸上を200m、大体1,000m位の高度を飛んで太平洋に真直ぐに出てそれから襟裳の方へ飛んで行く。と灯台員からの報告を得た。そ

れでこの説（前述の）は、うそだと判断した。大体、こういうコースを通過して北海道の方も道東へも飛んでいくのではないかと考えている。

ウトナイ湖は途中であるものが、よって行くのではないかと考えている。

先程皆様にお聞きすると、やはり道東に向って飛んで行くというお話でした。

私の知る範囲では大体こういうコースで、しかもこれを裏付けるように、私の鳥の弟子の船長がこの辺でイカの漁をしていると、この（シリヤ）と（エリモ）を結んだ線の上で、一番船に馴れて来る鳥が多いそうで、私は鳥の道は大小にかかわらず一定しているのではないかと考える。とにかく私はある（鳥類）学者の説を信じて4年の歳月を損したことを申し上げて既定の概念にとらわれないで、独自の眼で確めて研究をすすめていただきたいと思います。

北海道ウトナイ湖 伊賀 岩太郎

36年からございまして、日は浅うございませぬ。その短い中の状況でございますが、

最初は36年には、これは全般を通じて言いたいのですが、少なかつたわけでございます。羽数にいたしまして85羽という状態でございますが、だんだんと増えまして、40年には218羽、42年には241羽、現在は705羽来ております。そのようにだんだん数も増えて参ったわけでございます。いつ頃来て、いつ頃帰るかということでございませぬが、最初は11月に入りませぬと来なかつたので、ところが最近では10月に参るようになりました。昨年は10月17日に参った状況でございます。帰る時期でございますが、帰る時期はやはり4月の中旬には殆んど帰ったのですが、現在は5月に入って全部帰るといふような状態で、あそこに飛来している時期も早く来て、お

そくまでいるという状態が確認されております。それから一番多くいる時期でございますが、これもいろんな本州方面との関係が多分にあると思ひますが、3月の月が一番多いわけでございます。これから見ますと、白鳥は北の方からウトナイ湖に直接来て、あそこから帰るといふのもいくらかおると思ひますが、大体は道東の方に来まして、本州に渡る途中にウトナイ湖によってそして本州に行く数が、かなりをしめているのではないかと。帰る場合もそうでございますが、3月下旬が一番多いといふことは、やはり本州の方から帰る時によって翼を休めて、そして北の方へ帰って行くといふことが、そういう数も含まれていると考えております。

次に餌づけにつきましては、先程から各地に苦勞されて餌づけ成功されていふようですが、ウトナイ湖の場合いろいろの方法でいたしましたが成功しませんでした。ここ2、3年、先程各地のお話ありましたが、学校給食のパン屑をやったわけでございます。それには成功してあります。パン屑は好んで食べておるわけでございます。しかも学校給食のご援助を得まして教育委員会から多量にパン屑が貰えますので、餌の方の心配は余りないような状況でございます。苦小牧の環境的な問題でございますが、苦小牧は38年に港を作りまして、あの附近一帯は工場地帯と変つたわけでございます。その以前は（ ）原野といふ湿地帯で占められていたが、38年に港が出来てから急速にあの附近が、自然が変つて来たわけでございます。埋立てといふようなこと、あるいはまた、いろんな工場がまゐりましてそうした方面の影響も多分に受けておるわけでございますが、更に本年度から着工されるわけでございますけれども現在の港の東の方に数倍にわたるような港が出来、そしてまた工場地帯が出来るといふような状態になって来てあります。

こうした中でどのようにして環境の変る中で、白鳥を保護して行くかということにつきましては非常に心配されるわけでございます。

たとえばウトナイ湖の周辺もウトナイ湖の水を利用するために水かさを揚げると。

つきましてはウトナイ湖の自然の状態で保たれておったわけでございますが、その周辺にコンクリートの壁をこしらえまして、かさ上げいたしまして水を保つというようなことも考えられておるようで、そうとう変ることが予想されます。そのようなことで白鳥保護委員会といたしましては、いろんな方面と提携いたしまして出来るだけ自然を破壊しないですむような方法を市理事者の方を通し、進出して来るところの企業とも話しあって少しでも防せいで行きたいと考えておるわけでございます。

幸いにして苫小牧市に白鳥保護委員会の外に、苫小牧市郷土文化研究会あるいは苫小牧市自然保護協会というようなものが現在出来ておりまして、三者が歩調を合せまして、いろいろなPRなどいたしております。今一寸環境の変わりつつある中で、どうして行くべきかということで一生懸命になっている次第です。

よろしく願います。

北海道濤沸湖 玉田 誠

鳥獣保護区のことですが、これは何か普通保護地区というのと、特別保護地区というのと二つあるのだそうです。特別保護地区という指定を受けますと受忍負担、何か忍ぶことを受ける負担というのがあって、公用制限というのがあって普通ではもう手をつけられない、勝手に入ることも出来ないというような厳しい制限があるわけでございます。それでこの特別保護地区の指定というのは、勿論そういうことで困難をとまなうと思う

のですけれども。

トウフツ湖は900ヘクタールの水面は、特別保護地区。あと2,140ヘクタールは普通保護地区になっております。いろいろたいへんだと思うのですけれど、出来ればこの特別保護地区の指定を受けるようご努力をいただきたいと思うわけでございます。それからもう一つは、先程餌づけのことを申し上げましたが、私は餌づけ無用論者ではないのでありまして、それぞれの地区で事情があるかと思えます。私の所の学校でも、毎年全国から30人ほどの方から茶殻を送っていただくわけですけど、そのことが日本各地で白鳥を保護しなければならないという気持ちを植えつけていると思うわけです。われわれだけがいくらやっても駄目なので、やはり多くの人たちのご協力を得ることで、こういうものも断らないでおくことが、大事だと思うわけでございます。

私たちは朝7時半から観察をするわけですが、子ども、子供が岸边に立つと白鳥が泳いで来る。少し遠いのは飛んで来る。そして手から直接餌をとるわけでございまして、私などちょいちょい学校へおくれて行くような始末になるわけで、非常に可愛いものでございます。しかし、そのことが不幸なことにつながらないように注意をしていただかないと、人間というものはみな親切なものだというようなことになって、後から自分で餌を探ることを忘れてたり、いじめられたりすることのないように気をつけていただきたいと思うわけです。

プリントの最後に別海町の尾岱沼の場合という一項目がございまして、のちほど森下さんからお話があると思いますが、私の思いちがいから多少ニュアンスのちがった書き方をして かと申します。このことはお詫びしなければならないと考えております。以上

北海道野付湾 森 下 幸一郎

私は北海道の一番東端の別海町におりまして、風連湖、そして尾岱沼という野付湾の白鳥及び自然保護についていろいろと勉強させていただいております一人でございます。特に白鳥につきましては、町の鳥といたしましても46年に制定いたしまして町民ぐるみで保護しているというのが実態でございます。そういうなかで私共尾岱沼に野付湾に飛来する白鳥は、全国一であってしかも国際的にも非常に自負するところであります。というのは過去数年来、何千羽という白鳥が飛来しているわけです。それらの実態につきまして1、2申し上げまして、みな様方に御指導いただければこの会に出席したかがあるものと、考えるわけでございます。実は資料を持ってまいりませんので、ここに書きまして申し上げたいと思います。

従来私の方では10月14日もしくはそれよりづれても2、3日という形のなかで、この風連湖で白鳥を確認しております。白鳥は12月になりますとこれが全部しばれる。

これが氷りますと白鳥は必然的にこの野付湾に入るというようなことでございます。野付湾といっても非常に広いわけですし、特に という餌を見つけましては、こちらの浅瀬にありますアマモそしてエビモを採るわけでございます。ところがこれが12月、年が明けますと必然的に氷がはりはじめるわけですし、張る氷りがこの辺まで来るわけです。そうしますと必然的に鳥が追われてこの沿岸によると、で私共は学者でなくてよくわかりませんが、白鳥は一日に必ず一度は真水を飲まなければ生きていきないのではないかという論を聞いております。それが正しいのではないかということが、この春別の河口に必ずよるということです。で、こういう形の中で氷がはり、しかも風連湖に氷がはり、2月10日頃になりますと

流氷が入ります。そうしますと鳥の採餌する場所が非常に狭まれます。で、私共はその厳寒期の2月中旬に人工的な給餌、燕麦、そして茶殻、野菜類というようなものをやっております。しかし数が非常に多いために、ほんの一滴しか与えられないというのが実態です。で、この人工的給餌をやることを鳥本来の習性を失うものであるから、止めろと一部の学者の方が言われております。私は先程玉田先生がおっしゃった人工給餌することについての必要であるという論者の一人です。

ということは自分で採餌を出来ない場合には、当然人工的に給餌をするのは当りまえでないかと判断するのです。そこでみな様方にお伺いしたいのは、茶殻の取扱いのことなのです。私共茶殻を全国各地の方から茶殻をトラックに何台という程いただいております。しかし、乾燥が不十分でカビがはえたり、虫がついたりでということ非常に給餌の時に支障をきたしております。で、白鳥の生態をある程度専門的な方にお願いますと、その茶殻のカビが原因で死ぬというような実態も出ております。で、みな様の中で茶殻がほんとうに、白鳥に対して、いい餌であるかどうかということをお聞きしたいと思うのであります。それともう一つは、我々が人工的に人間が動物に対する給餌することがはたして是か非かお伺いしたいと思うのです。先程来の方々のお話ですと、15羽、20羽、多くは1,000羽の中で給餌をなさっているように伺っておりますが、私共は数多い白鳥の中のほんの一部にしか与えられないので、非常に効力はないと思いますが、その中で果たして茶殻をやる方がいいか悪いか、合せて人工的に人間が鳥に対して給餌することがいいか悪いかということをお伺いしたいと思っております。実はこの写真が、現在風連湖に残っている白鳥7羽なのです。この鳥が残ってい

ることは餌づけをするから残るのだと言う人がいるのです。そこで私共はこの機会に、白鳥を研究なさっているみな様方に是非お伺いしたくて、今回ははるばる出席させていただきました。私共は茶殻については、全国の方々からいただいて茶殻は白鳥が食べないとお断りするの、非常に心苦しくて困っているのが実態です。みな様のお知恵を拝借したいのです。

新潟県瓢湖 吉川 繁 男

餌づけのことでいろいろとご意見がありました。が、瓢湖の場合を申し上げます。

瓢湖では昭和29年以来餌づけをしています。主としてシイナ（稲の未熟なモミ）をやり、そこにパンくずや茶ガラ（ムギ茶または緑茶のよく乾燥したもの）をまぜてやっています。白鳥にとってはもちろん水生植物等の自然のエサが一ばんいいわけですが、戦後の食糧難のころ父が考案した、代用食のような“茶ガラ”が、新聞やラジオやテレビで、白鳥の好物として紹介されて以来、白鳥のエサは“茶ガラ”だけというふうに誤解されていったように思います。瓢湖の白鳥は茶ガラも食べますが、決して好物というほどではなく、いま

では学校給食の残りの食パンやパン屋さんのくださるパンくずが一ばんの好物のようで、日本人の食生活の変化につれて白鳥たちの食性も変ってきたようです。

しかし瓢湖の白鳥も渡来したものの全部がまんべんなくエサにつくことはまれで、つねに新しい渡来白鳥と入れかわったり、グループごとの交流もはげしいようです。また一日に三回、午前8時、11時、午後3時頃と時間をきめて、与えるエサの量も白鳥の頭数と顔ぶれを見て加減してやっております。しかし結局は自然のエサを求めて移動するわけで、瓢湖でも自然のエサをたやさないよう、水きん公園の用地として新しく買上げた田んぼを利用して「グロクワイ」などを植え、自然の餌の繁殖をはかっております。

イギリスの白鳥渡来地スリムブリッジでもムギやヒマワリのタネ、パンくずなどを与えていたが、やはり時間をきめ、特定の人が一定量を与えていました。しかもこの餌づけは、観光のためではなく、研究と保護を優先した白鳥のバンデングをしやすくするためや、個体識別の終了した白鳥たちの生態の観察がしやすいようにするためのようでした。

要は勝手気ままな定見のないエサづけはやるべきではないと思います。しかし瓢湖の場合、全国から送ってくださる“茶ガラ”が毎年トラックで三台分もありますので、わざわざ送ってくださった方には礼状を差し上げたりして、そのまごころに感謝いたしております。（この項、録音状態が悪く聴取不能だったため、後日吉川氏から直接取材し、記載しました。）